

博多湾に浮かぶ志賀島。「神の島」、「祈りの島」とも称されるこの海の聖地には、古代の記憶がぎっしりと蓄積されています。海を通じて世界とつながり、さまざまな神話を生みだしてきた志賀島は、「海神(わたつみ)」の総本宮である志賀海神社とともに長い歴史を刻んできました。今年8月から12月にかけて、3期にわたって開催する「志賀島プロジェクト2018」では、海とともに生きてきた志賀島を知り、体感するために「志賀島自由大学」を開講します。また、12月に開催される創作神楽「ISORA 2018」は、志賀島の神話を現代によりみえらせる試みです。

海と神話の舞台となった志賀島。そこにねむる古代の海人の叡智は、21世紀に生きるわれわれに海のネットワークの重要性に気づかせ、そして、無限のイマジネーションをあたえてくれるでしょう。ぜひ、「志賀島プロジェクト2018」にご参加ください。(総合ディレクター：藤枝守)

海と神話をつなぐ

志賀島プロジェクト2018

「祈りの島」の記憶を、今ひもとく



志賀島自由大学 第1期 参加者募集

名誉学長：志賀海神社権禰宜・平澤憲子

【レクチャーシリーズ】

8月25日：水産学者が読み解く記紀神話～和邇・鰐の正体～

9月9日：阿知女作法と阿曇族

【ワークショップシリーズ】

9月1日：海を聴く～海中レコーディングにチャレンジ！

9月9日：阿知女作法をうたう～沖津宮・海割れ参拝

お申し込み方法

ソーシャルアートラボのウェブサイトよりお申し込みください。

<http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/shikanoshima.html>

お申し込みフォームにご記入いただいた方に、メールで振込口座をご案内します。入金確認後に受付完了となります。

■お問い合わせ先

九州大学ソーシャルアートラボ志賀島グループ

email: sal-sea@design.kyushu-u.ac.jp

tel: 050-3573-4283



九州大学



大学院芸術工学研究院
大学院芸術工学府
芸術工学部

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています。

8.25 (sat) レクチャー 13:00-15:00

水産学者が読み解く記紀神話

～和邇・鰐の正体～

古事記や日本書紀などの海洋民族の記述を、長年にわたり魚介類の病気を専門としてきた水産学者の宮崎照雄氏に自然科学の視点に立って読み解いていただきます。これまでの歴史学的な視点からではみえてこなかった斬新で科学的な古代史の様相が明らかにされます。

講師 宮崎照雄
場所 志賀海神社「参集殿」
定員 40名(要申し込み・先着順)
参加費 1000円

9.1 (sat) ワークショップ 15:00-18:00

海の音を聴く

～海中レコーディングにチャレンジ！

いっけん、しずかにみえる海面とはまったく異なり、海のなかには音で満ちあふれています。志賀島漁港近くの棧橋から海に釣り糸のように水中マイクをたらし、海の音をレコーディングして聴いてみましょう。エビなどの海中生物たちが発するダイナミックなサウンドが広がっているかもしれません。

講師 岡崎峻
集合場所 志賀島ふたば幼稚園
定員 15名(小学校3年生～中学校3年生)
※小学生の場合は、必ず保護者が同行してください。
参加費 1000円
持ち物 帽子、飲み物、磯歩き用の靴かビーチサンダル、タオル

9.9 (sun) レクチャー 11:00-12:30

阿知女作法と阿曇族

宮中に伝わる「御神楽」の演目のひとつ「阿知女作法(あちめさほう)」は、海の底にいる神の「阿度部磯良(あどめのいそら)」に呼びかける声であったと言われています。その阿度部磯良を祖神としたのが古代の海人である「阿曇(あずみ)族」でした。志賀島に鎮座する志賀海神社は今日まで阿曇氏によって守られてきました。阿曇氏の家系に生まれた平澤憲子氏と雅楽家の石川高氏に「阿知女」の由来や阿曇族とも関係について語っていただきます。

講師 平澤憲子、石川高
場所 志賀島休暇村「万葉の間」
定員 40名(要申し込み・先着順)
参加費 1000円

9.9 (sun) ワークショップ 13:30-17:00

阿知女作法をうたう

～沖津宮・海割れ参拝

このワークショップ当日は大潮にあたり、潮が引く午後の時間帯にかぎり、志賀島の先端の沖津宮に渡って参拝することができます。この沖津宮参拝に先立ち、古代歌謡を現代に伝える石川高氏に「阿知女作法」の歌唱を伝授していただき、この「阿曇族」に因んだ神楽歌を沖津宮にて参加者全員で唱えます。

講師 石川高、比屋根綾子(ナビゲーター)
場所 志賀島休暇村「万葉の間」
定員 40名(要申し込み・先着順)
参加費 1000円
持ち物 帽子、飲み物、磯歩き用の靴かビーチサンダル、タオル

■講師プロフィール

宮崎照雄

1949年三重県生まれ。東京大学大学院農学系水産学修士修了。農学博士(東京大学)。三重大学名誉教授。魚の病気を40年間にわたり教育・研究。著書に『三角緑神獣鏡が映す大和王権』(梓書院)。論文『神武は鯨を見たか? - 神武東征と神武歌謡を考える』が平成27年「邪馬台国全国大会in福岡」において最優秀賞。

岡崎峻

九州大学大学院博士課程単位取得満期退学。水中環境音の聴取をはじめ、電気的なテクノロジーを利用した不可聴の現象の可聴化について研究を行う。論文に「二重記述へのステップ-デヴィッド・ダンの《樹の中の光の音》における科学的視座の役割」(『表象11』、2017年)など。

平澤憲子

志賀海神社社家の阿曇家に生まれる。大学卒業後、外資系IT企業にシステム・エンジニアとして勤務。2009年に兄の前宮司・阿曇磯和氏の急逝により、神職資格(正階)を取得し、2012年より志賀海神社に権禰宜として奉職。

石川高

1990年より笙の演奏活動をはじめ、催馬楽などの歌唱でも高い評価を受けている。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏、即興も情熱的に行っている。宮田まゆみ、豊英秋、芝祐靖各氏に師事。雅楽団体「伶楽舎」に所属。和光大学や学習院大学、沖縄県立芸術大学、九州大学などの講義を担当。

■会場情報

- [8/25]** 志賀海神社「参集殿」
福岡県福岡市東区志賀島 877
(駐車場有/志賀島渡船場から徒歩10分)
- [9/1]** 志賀島ふたば幼稚園
福岡県福岡市東区志賀島 1735-116
(駐車場有/志賀島渡船場から徒歩10分/市営バス「志賀島小学校」下車徒歩1分)
- [9/9]** 志賀島休暇村
福岡県福岡市東区勝馬 1803-1
(駐車場有/渡船場前最寄りのバス停「志賀島」から市営バスで15分「志賀島休暇村」下車徒歩0分)

■志賀島へのアクセス

- [福岡市営渡船をご利用の場合]**
博多埠頭から志賀島渡船場まで約30分
- [JRをご利用の場合]**
JR西戸崎駅から市営バスで志賀島まで約10分

■今後のスケジュール

- 志賀島自由大学 第2期**
[レクチャー]
10月27日(土): 聖地としての志賀島
講師: 平澤憲子 / 会場: 志賀海神社「参集殿」
- [ワークショップ]
10月7日(日): 志賀島の浜辺に龍を描こう
講師: 知足美加子 / 会場: 志賀島・海の家「丸良」
- 10月27日(土): 志賀島の聖地をたどる
講師: 平澤憲子、比屋根綾子(ナビゲーター)
会場: 志賀海神社「参集殿」

創作神楽「ISORA 2018」

12月22日(土)
場所: 九州大学大橋キャンパス多次元デザイン実験棟ホール
音楽監督: 藤枝守
出演: 石川高 ほか
舞台美術: 知足美加子

藤枝守(総合ディレクター)

作曲家。カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D. in Music)を取得。入野賞や日本現代藝術奨励賞を受賞。植物の電位変化のデータに基づく《植物文様》を展開。CDに《ゴシック・ハーブの植物文様》など多数。九州大学大学院芸術工学研究院教授、福岡市MICEアンバサダー。

池田美奈子(広報ディレクター)

ドイツで美術史を学んでいた時にバウハウスと出会いデザインの道へ。帰国後、東京藝術大学大学院を修了し、同大学助手を務めた後、デザイン誌の編集者となる。独立後、IIDjを共同設立し情報デザインを中心に活動を展開。2003年より九州大学大学院芸術工学研究院准教授。専門はデザインと情報編集。

コーディネーター:
高坂葉月(九州大学ソーシャルアートラボ)
地域コーディネーター:
比屋根綾子(志賀島文化協会)
プロジェクトメンバー: 佐々倉由美
デザイン: 藤匠汰朗(九州大学)

主催: 九州大学ソーシャルアートラボ
共催: 志賀島文化協会、志賀島自治連合会
協力: 志賀海神社、ふたば幼稚園、志賀島漁業協同組合、志賀商工会、福岡市博物館
後援: 福岡市、西日本新聞社、RKB毎日放送
助成: 日本財団「海と日本PROJECT」